

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 京都市 】

学校名【 京都市立四条中学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ Ⅲ ・ IV ・ V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	第一学年 102名 (男子56人 女子46人)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名(人権学習) ② 行事名() ③ その他() (2) 地域における活動 ① イベント名() ② その他()
4 目標 (ねらい)	パラリンピアンを通じて共生社会について考える 様々な立場で生きる人との出会いの中で自分自身を含めたそれぞれの人の良さや違いをありのままを受け入れる事ができることを目指す。どんな社会が皆にとって暮らしやすいのか一人ひとりが生き生きと生きていく為に必要なことは何かを考え、具体的に行動に移せるようにする。
5 取組内容	1限目 国際パラリンピック委員会公認教材I'm POSSIBLEより「パラリンピアンの日常生活を考える」を活用 グループワークを通して、バリアフリーの在り方について考える 障がいの有無に関わらず、他者に対する先入観に気づき、相手との違いを知り、対話をする事の大切さを学ぶ 2限目 オンライン版 あすチャレ！ジュニアアカデミー ワークショップ型オンライン授業形式で、共生社会実現のために何かができるかを障がい者講師と対話を通して一緒に考える (講師 伊吹祐輔氏) 3限目 これまでの学習をふりかえり、 コロナ禍の中でソーシャルディスタンスに戸惑う視覚障がい者の記事を紹介しつつ、まとめとして共生社会についてあらためて考える。 新聞記事「全盲ランナー「パラリンピックの準備期間延びた」 接触が命綱 社会的距離に戸惑う 伴走者とは一心同体 *学習前と学習後に筑波大のオリンピック教育プラットフォームのアンケートを実施。
6 主な成果	1限目の学習では、バリアとはとかく施設面のことを考えがちであるが、障がい者に対する先入観(思い込み)すなわち自分たちの中にあるバリアの存在に気づくことができたこと。それを踏まえて、修学旅行のランチシーンのお店選びの際にメンバーが取るべき対応についてグループワークで建設的な意見を出し合うことができた。 2限目のオンラインでの授業は初の試みで、リアルタイムで講師と対話形式で学習できるので、生徒の飲み込みも早かった。パラリンピックの映像や、パラリンピアンの出来ることへの飽くなき挑戦の姿にふれ、それは障がいの有無に限らず自分たちにも当てはまることでもあるという事に気づくことができた。

オンライン授業のようす



3限目ではふりかえりを中心に、新聞記事を使って、あらためてコロナ禍の中の共生の意味を考えることができたと思われる。

オンライン版あすチャレの講演後の感想より（ブッキーは講師のニックネーム）
もともとパラリンピック、パラスポーツには興味があり、家でも調べてみたりすることもあったので、こういう機会ですぐに話を聞いたり出来てとても勉強にもなり、よりパラスポーツやパラリンピックに興味が増えました。パラリンピックの動画を見て、目の不自由な人にとって、普段の生活でも不安であったり怖く感じることは少なからずあるはずなのに、スポーツにチャレンジし、一生懸命頑張っている姿や、うでの不自由な人が足を使って器用にスポーツをする姿、そしてブッキーさんのように足が不自由ながらバスケットボールを頑張っている人がいるという事などたくさん知り、自分もバスケット部に所属していますが、パラスポーツを頑張る人達に比べると全然努力していなかったなと思いました。自分のあまさを改めて考えさせられ、今日からはバスケットボールも勉強も、いろいろなことをもっとたくさん努力をして、たくさんさんのチャレンジをしようと思いました。今回の授業を受けることが出来てとても良かったと思います。

障がい者であってもいろいろなことが出来るのだとわかりました。そのできることによってどんどんチャレンジしていく姿がカッコイイなと思いました。また、そのチャレンジに失敗してもまたチャレンジするところもカッコイイと思いました。そのことが成功したら自分の自信になったり可能性になっていくのだとわかりました。成功するためにはたくさんさんの工夫や努力が積み重なって成功につながっているのだと思いました。私は映像を見てパラリンピックに参加する人のためにいろいろな工夫がされていてすごいと思いました。いろいろな話を聞いて、自分にもいろいろなところでたくさんさんのサポートしたり出来るのだと思いました。それをサポートしていくことによって障がい者の人の大変なことが少しだけでも減り、サポートした側もされた側もいい気持ちになるのだと思いました。

私は、今日のテーマの「工夫することの大切さ」について知ることができてよかったです。パラリンピックの存在は知っていたけどマックさんの競技など初めて知れてよかったです。また、金、銀、銅メダルの確認は中に入っている鈴を確認することを知ってびっくりしました。大学生になったら車イスバスケのチームの中に入れるという事を知って、めちゃくちゃ入りたくなりました。また、頑張っている人に素直に「がんばれ〜」と言える人になりたいと思いました。今日の授業で車イスの人や障がいをもっている人の苦労とか分かったので駅などで困っている人がいたら助けられるようにしたいです。

僕は今日ブッキーの話を聞いてスポーツにもっと興味をもちました。普通のスポーツだけじゃなくて障がいをもっている人のスポーツもいいなと思いました。一つ一つの競技にたくさんさんの工夫があっておもしろいと思います。障がい者だからって何もできないわけじゃない、工夫をすることによって不可能を可能にできるってことにすごいなと思いました。あと障がいを持っている人のすごい前向きな考えがいいと思いました。なので街で出会ったりしたら僕は自分から積極的にできるだけの手伝いができるようにしたいです。

私はお話を聞いて、これまで学校に登校する時など車イスにのっている方や陸上の競技場で車イスマラソンの練習をしている方など私の身近な所でたくさん出会っていると改めて思いました。また、私たちが普段何も考えずに使っている階段も障がいのある方にとってはとても大きな障害物だけ私たちの行動で困っている人の助けになると分かり、これまでは困っている障がい者の方かいても、声をかける勇気が出なくてどうしようか迷っている間に違う人が声をかすて力になってあげたりと私は行動に移すことができなかったの、いつか障がい者の人だけに限らず、困っている人を見かけたら自分で行動するなど少しでも力になれる人になりたいと思いました。また、パラリンピックは私が知らない競技がまだまだたくさんあったので来年開催されたら注目してみたいです。そして私も部活などでたくさん練習から工夫して「できない」から「できる」に変えていけるように頑張っていきたいです。

<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>コロナ禍の中でパラスポーツの体験と講演者を確保するのが難しく、密をさけてソーシャルディスタンスを保ちながらの講演の持ち方を模索しましたが、オンライン版でのリアルタイムで対話をしながらの授業が実施できたことが画期的でした。双方向であること、他クラスの様子がzoomで映し出されることで、体育館などで聴く講演よりも子どもたちに浸透した。 バリアについて考える学習も、I'm POSSIBLEの教材を活用したことはグループワークを重視していたので、子供たちの考えを共有しやすかった。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>オンライン版あすチャレの講演内容を確認するのが直前となった。(こちらの間合せで内容があきらかになったので、もっと早めに確認しておくべきだった。講演の前の学習内容との重複の有無などをはっきりしておくほうがいい。今回は特に支障はなかったが) 学校のテレビとタブレットでスムーズにズームを利用できたが、そのために、前々日に30分ほどのオンラインでの打合せが必要 スタッフが大変でいねいに対応していただきました。 部活が終了した17:30からの打合せで使用する教室の担任と当日の動き(入室時間、退室時間など)を細かく確認しました。 今回はグループワークを1時間取り入れたが、コロナの状況で考えて議論する活動が難しくなるかもしれない。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>パラリンピックが開催された場合、大会の様子や選手について取り上げて学習を深められたらと考えている。</p>